

Jミルクが2022年9月30日に公表した「需給見通し(※2022年7月迄実績)」の予測値とその後の実績をグラフ化しています。

「牛乳乳製品統計(農林水産省)」の公表に併せて、今後も毎月配信していきます。

発行：一般社団法人Jミルク生産流通グループ

「年末年始に大きな混乱は発生無し～今後は年度末に向けて準備を進める必要」

・11月の生乳需給実績について、飲用等向は年度当初からの低迷に11月からの製品改定の影響が重なり、前年を下回った。一方、生乳生産量は都府県・北海道ともに前年を下回っており、全国では前年▲2.8%と今年度最大の減少率となった。その結果、乳製品向は生乳生産量の減少分が主因となり、前年を大きく下回ることとなった。なお、全国指定団体受託乳量(速報)では12月以降95%台で推移しており、1月以降の生産量も前年を下回ると見通される。

・乳製品向の仕向量減少から脱脂粉乳・バター生産量も減少しており、脱脂粉乳は全国協調の在庫解消対策と北海道(ホクレン)の国産脱脂粉乳への置換対策の効果による推定出回り量の増加も重なったことで、在庫量は前月に比べ減少した。バターについては、業務用需要が引き続き回復傾向にあるため推定出回り量は前年を上回っており、輸入売渡分を考慮しても在庫量は前月よりも減少した。両品目ともに在庫量は減少傾向にあるものの、依然として高い水準が継続しているため在庫対策を含めた需要確保対策による在庫消化が不可欠となっている。

・12月の牛乳販売動向(インテージSRI+実績:前年比95.6%、Jミルク予測(牛乳業務用以外):94.3%)については、農水省の牛乳乳製品統計が高めとなる傾向にあることのほか、これまでのSRI+実績をみると乳価引き上げに伴う製品価格改定による消費への影響はJミルク予測よりも小さいとみられることから予測値水準並み、または上回って推移している可能性が考えられる。

・新年度に入ってから食品等の値上げは続くと思われ、家計負担は一層大きくなるものの、中国ではロックダウンが緩和され、今月末には春節に伴いインバウンド需要が期待される。一方で、新型コロナウイルスの感染拡大や変異株まん延の可能性も否定できない。このように需要は不透明な状況が続くため、引き続き動向を注視する必要がある。

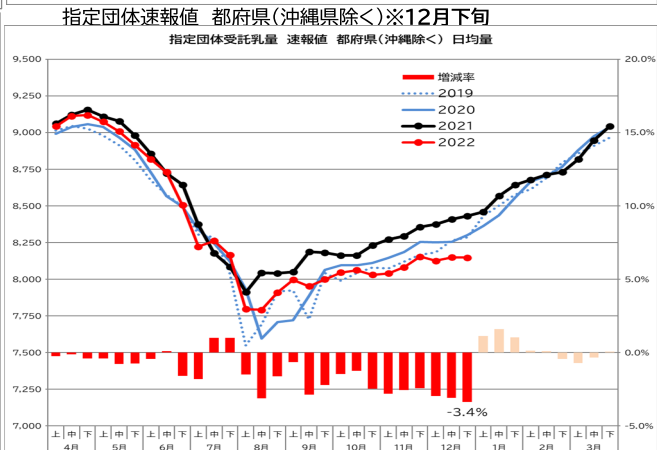
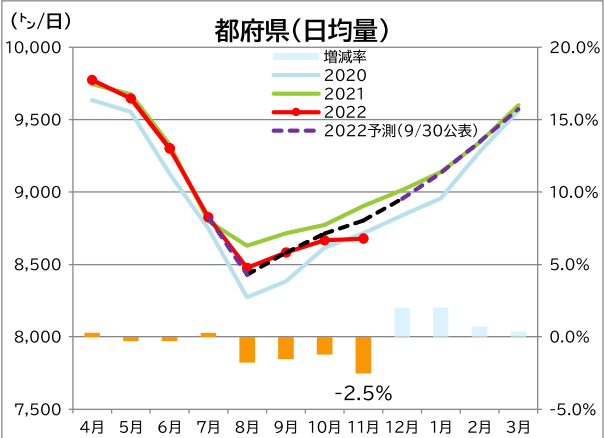
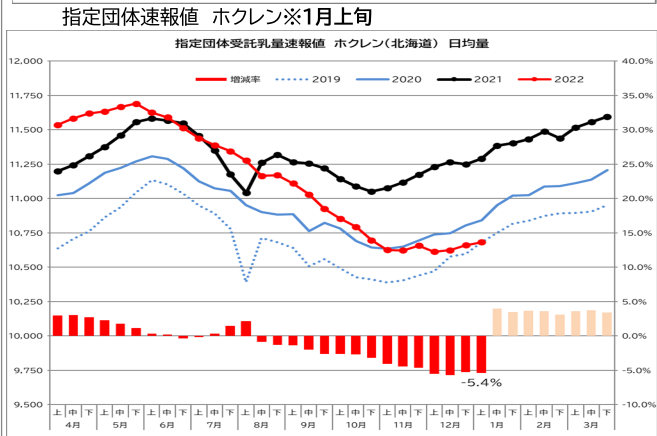
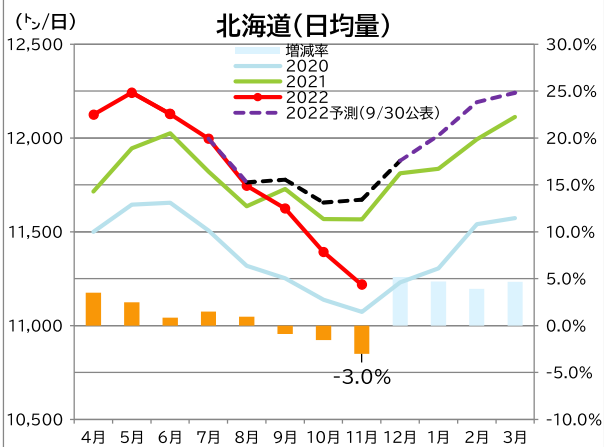
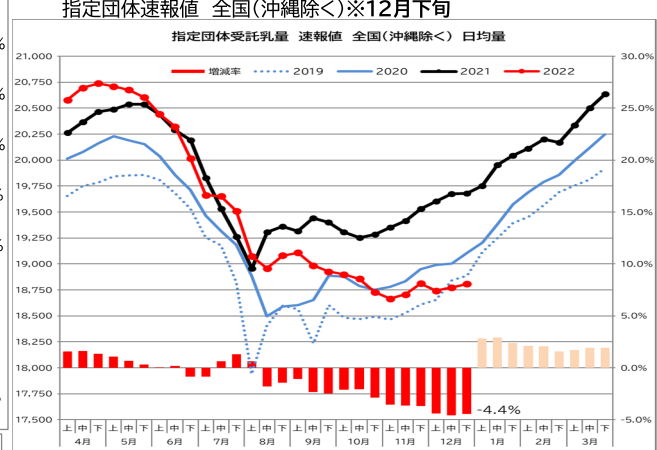
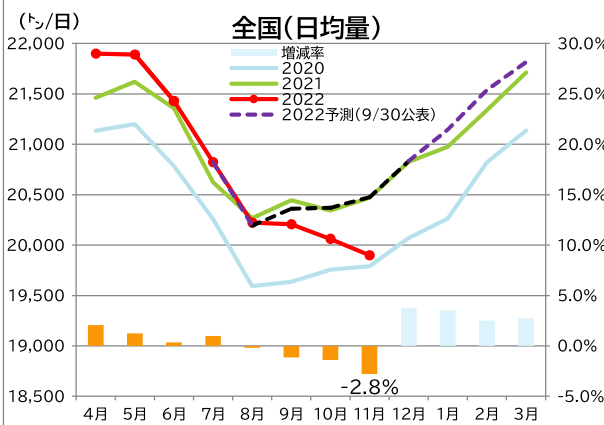
・直近の3連休を含めた年末年始における生乳需給については、生乳生産量の減少や乳製品処理体制の準備、需要拡大運動等が功を奏したことにより、大きな混乱が発生したとの情報は無い。しかしながら、年度末に再び厳しい需給緩和が想定されるため、引き続き危機感を緩めることなく業界一丸となって対応について準備を進める必要がある。

【生乳生産量】※増減率は、日均量で算出。

(1)11月の生乳生産量は、全国596.9千ト(前年同月比97.2%)、北海道336.6千ト(同97.0%)、都府県260.4千ト(同97.5%)。

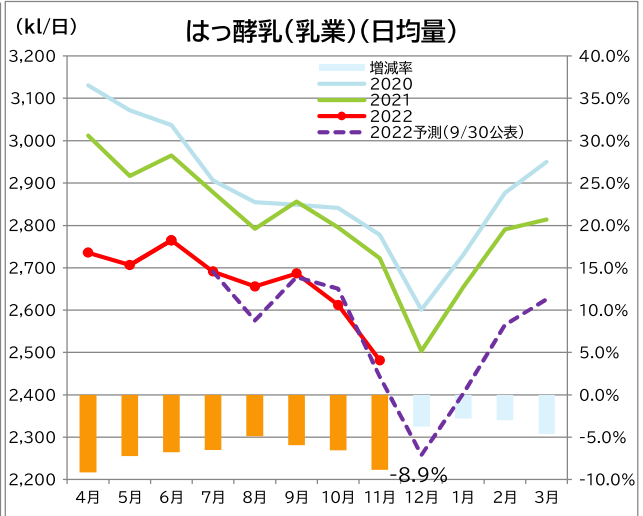
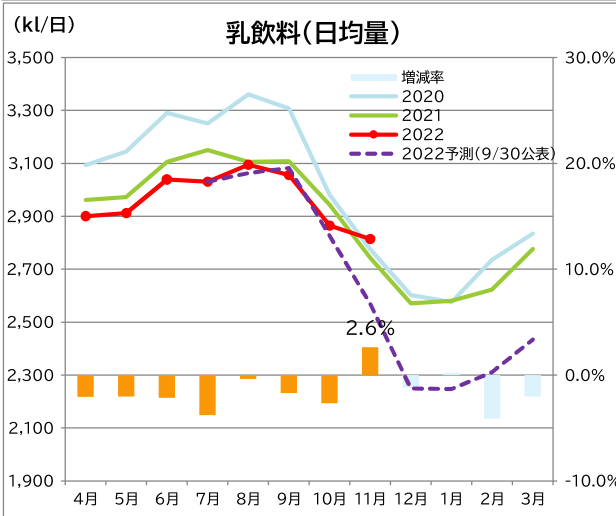
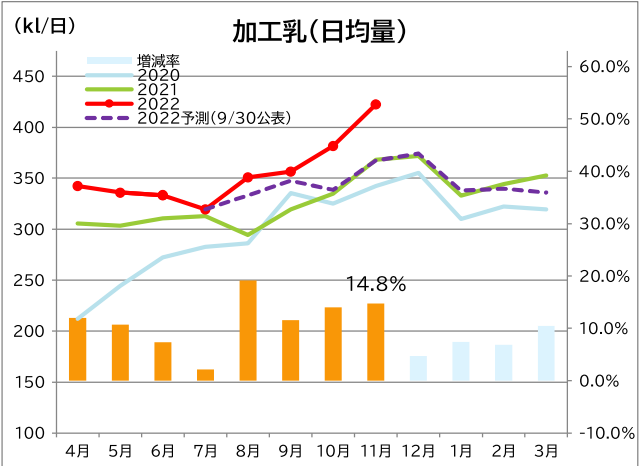
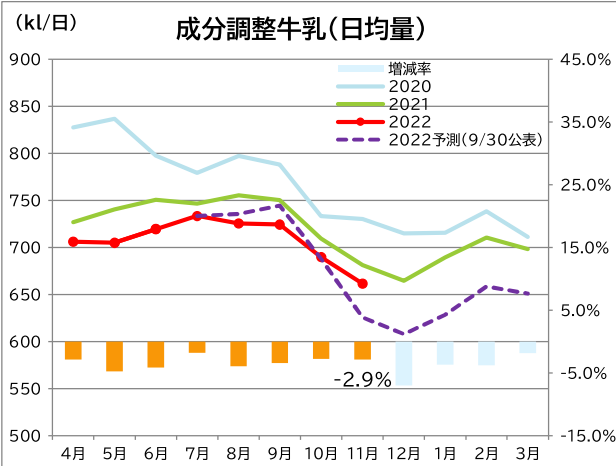
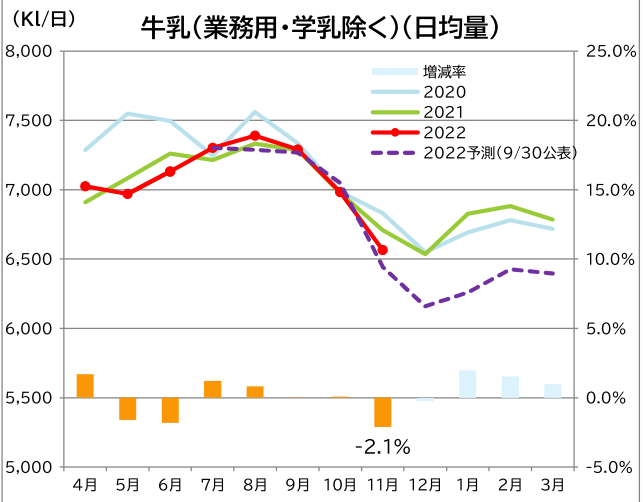
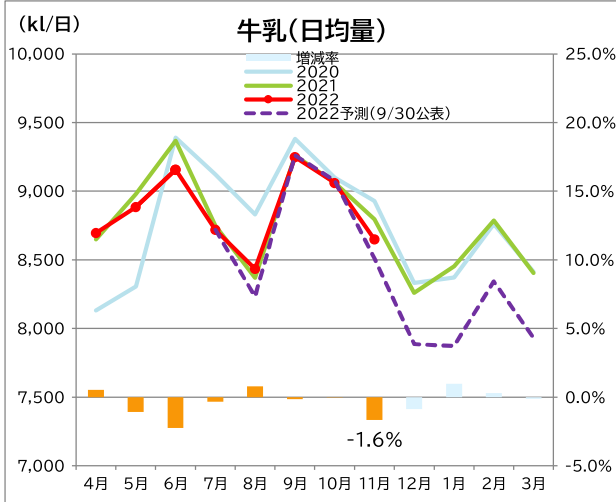
(2)Jミルク予測値(全国614.3千ト、北海道350.1千ト、都府県264.1千ト)との比較は、北海道、都府県ともに下振れとなった結果、全国でも下振れとなった。

(3)直近の指定団体速報値は12月下旬で全国が同95.6%、都府県(沖縄除く)が同96.6%、北海道は1月上旬で94.6%となっている。



【牛乳等生産量】 ※増減率は、日均量で算出。

(1)11月の牛乳等生産量は、牛乳259.5千kl(前年同月比98.4%)、成分調整牛乳19.8千kl(同97.1%)、加工乳12.7千kl(同114.8%)、乳飲料84.4千kl(同102.6%)となり、牛乳類合計では376.5千kl(同99.7%)となった。
 (2)「牛乳」のうち、「業務用以外」は、同97.9%、「業務用」は同101.1%、「学乳」は98.8%。
 (3)はっ酵乳(乳業)は74.4千kl(同91.1%)と前年を大きく下回って推移している。
 また、非乳業実績(10月)については、同101.2%と前年を上回った。

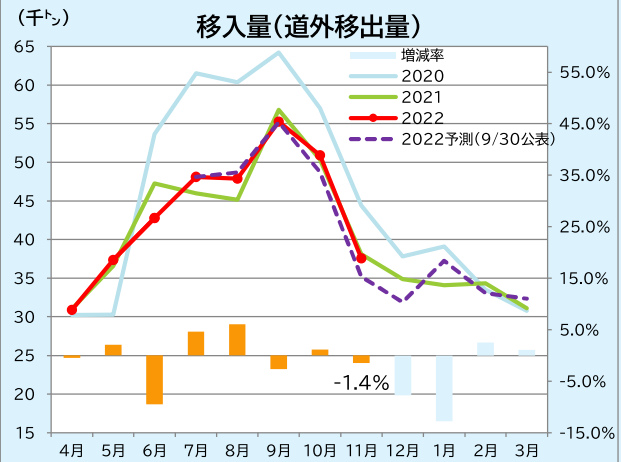
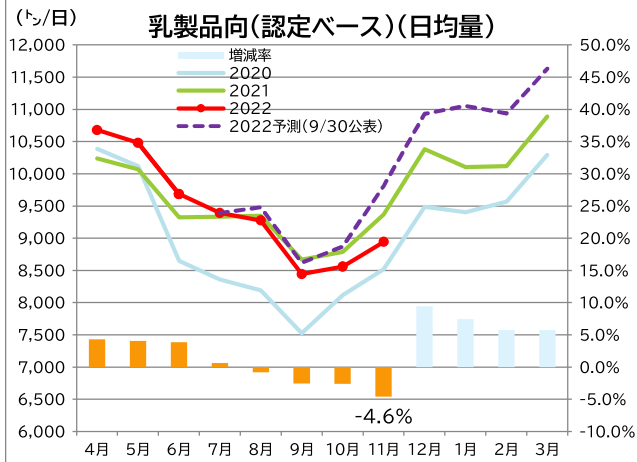
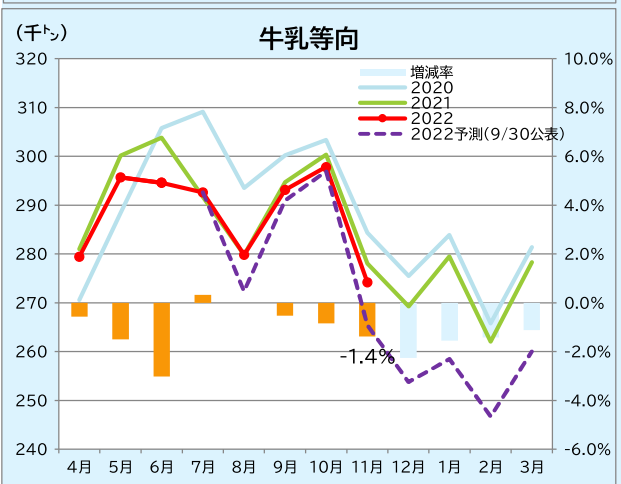
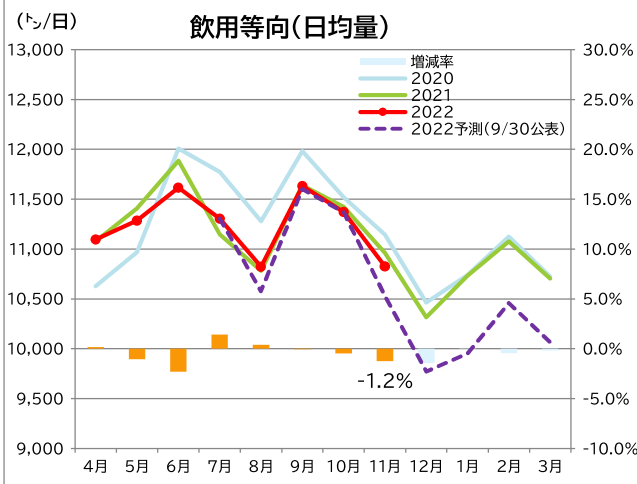
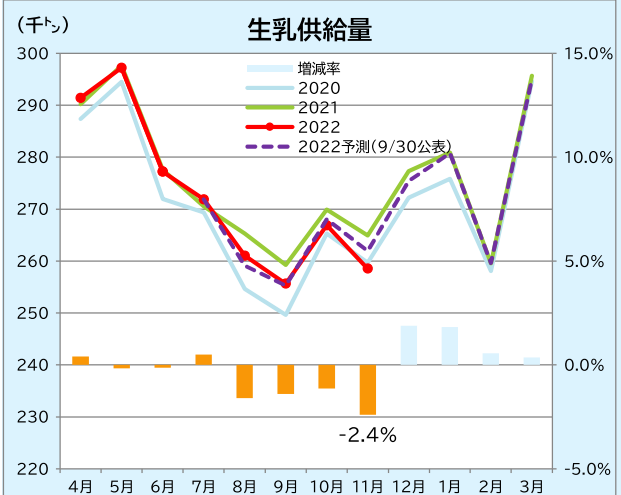
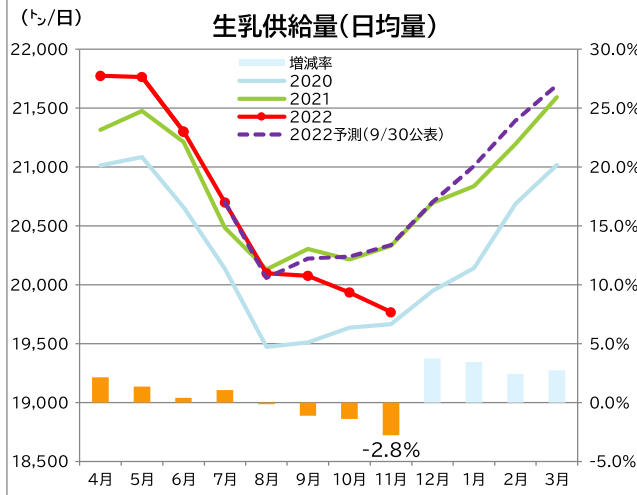


【用途別処理量(全国)】 ※増減率は、日均量で算出。

(1)11月の生乳供給量は593.0千ト(前年同月比97.2%)、飲用等向324.8千ト(同98.8%)、乳製品向(認定ベース)268.3千ト(同95.4%)。
 (2)飲用等向は前年を下回ったが、生乳供給量の減少幅の方が大きく、乳製品向は前年を下回った。
 (3)予測値との比較では、生乳供給量(予測値:610.1千ト)は大きく下振れ、飲用等向(予測値:315.9千ト)は上振れ、結果乳製品向(予測値:294.2千ト)は大きく下振れとなった。

【都府県の生乳需給】

(1)11月は、生乳供給量258.6千ト(前年同月比97.6%)、牛乳等向274.2千ト(同98.6%)。
 (2)北海道からの移入量について、37.6千ト(同98.6%)と前年を下回った。
 (3)予測値との比較では、生乳供給量(予測値:261.9千ト)はやや下振れ、牛乳等向(予測値:265.4千ト)は上振れ、北海道からの移入量は(予測値:35.2千ト)はやや上振れとなった。



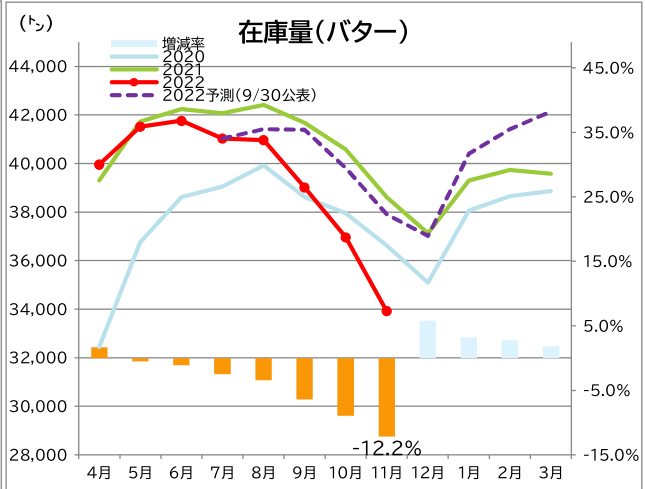
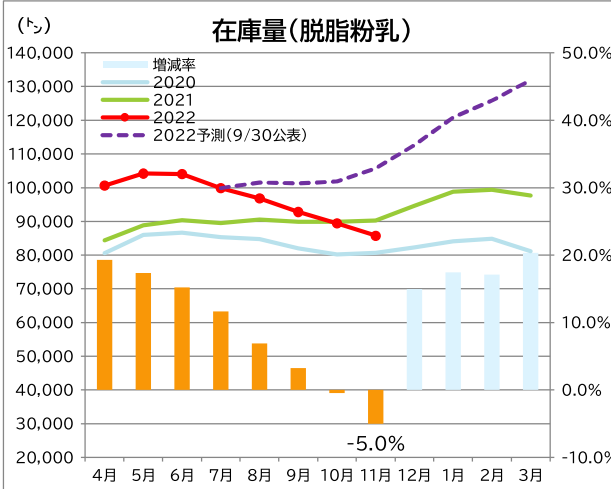
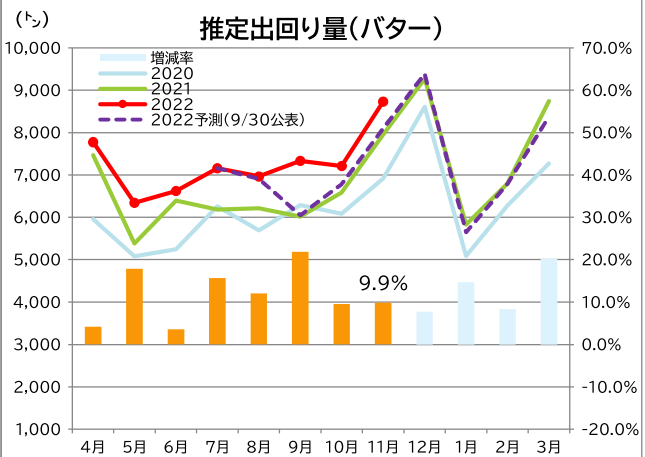
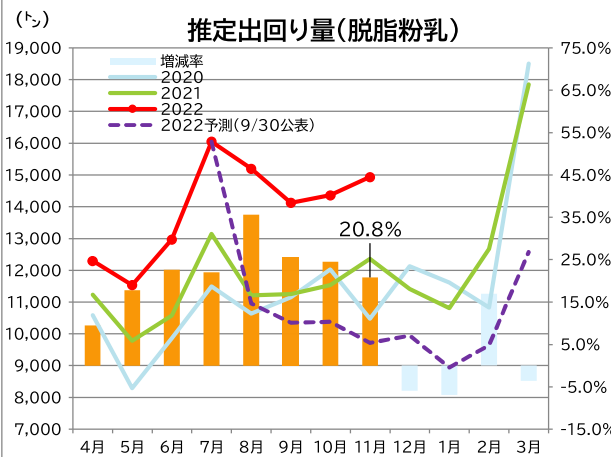
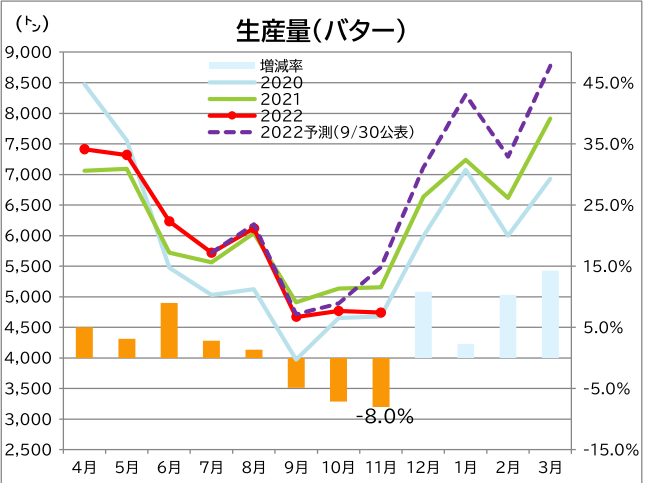
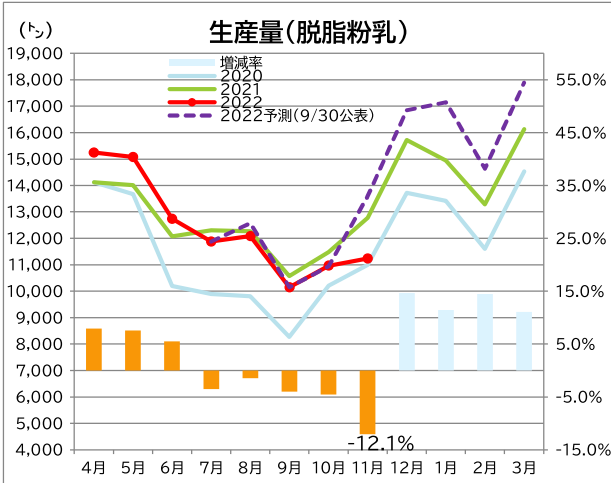
【脱脂粉乳・バター需給】

(1)脱脂粉乳について、11月の生産量は11.2千トン(前年同月比87.9%)、推定出回り量は14.9千トン(同120.8%)。結果、在庫量は85.8千トン(同95.0%)。生産量よりも出回り量が上回ったことから、在庫は前月よりも減少した。国産脱脂粉乳への置換が進められており、在庫量は6か月連続して減少し、2ヶ月連続で前年を下回った。

※推定出回り量には全国協調の在庫対策と北海道(ホクレン)の独自対策による国産脱脂粉乳への置換分を含む。

(2)バターについて、11月の生産量は4.7千トン(同92.0%)、推定出回り量は8.7千トン(同109.9%)。結果、在庫量は33.9千トン(同87.8%)。生産量よりも出回り量が上回っており、国家貿易による輸入売渡分を考慮しても、在庫は前月よりも減少した。在庫量は5か月連続して減少している。

※推定出回り量には北海道(ホクレン)の独自対策による国産バターへの置換分を含む。



【牛乳類の販売速報(推定値):インターズSRI+】 ※量販店・コンビニ等、小売店の販売実績

(1)12月の動向(表①参照)

・販売個数は、牛乳:前年同月比95.6%、成分調整牛乳:同92.3%、加工乳:同98.7%、乳飲料:同104.0%。
牛乳類では同96.6%

【参考】2020年度比…牛乳:91.5%、成分調整牛乳:85.7%、加工乳:98.8%、乳飲料:94.3%(牛乳類トータル:91.6%)

・販売単価は、牛乳:206.2円、成分調整牛乳:188.3円、加工乳:199.7円、乳飲料:157.6円。

(2)直近の週次動向(表②・グラフ参照)

・直近(1.2週)の販売個数は、牛乳:前年同期比88.6%、成分調整牛乳:同84.7%、加工乳:同87.5%、乳飲料:同96.3%。
牛乳類トータルでは同89.3%

【参考】2020年度比…牛乳:92.7%、成分調整牛乳:85.7%、加工乳:105.5%、乳飲料:96.4%(牛乳類トータル:93.0%)

【参考】2019年度比(コロナ禍前)…牛乳:97.3%

直近2週の前年比増減について、前年(2021年度)の12.27週と1.3週との販売個数を比較していることから、1月2日の販売個数減少分の反動と予想される。2週合算の前年比は、牛乳:92.6%、成分調整牛乳:89.0%、加工乳:92.7%、乳飲料:100.8%(牛乳類トータル:93.4%)

※出典 ㈱インターズSRI+週データ。販売本数、販売単価(税抜)については推定値。データ転用はご遠慮下さい。

【表① 牛乳類の月別販売動向(11月は速報値)】

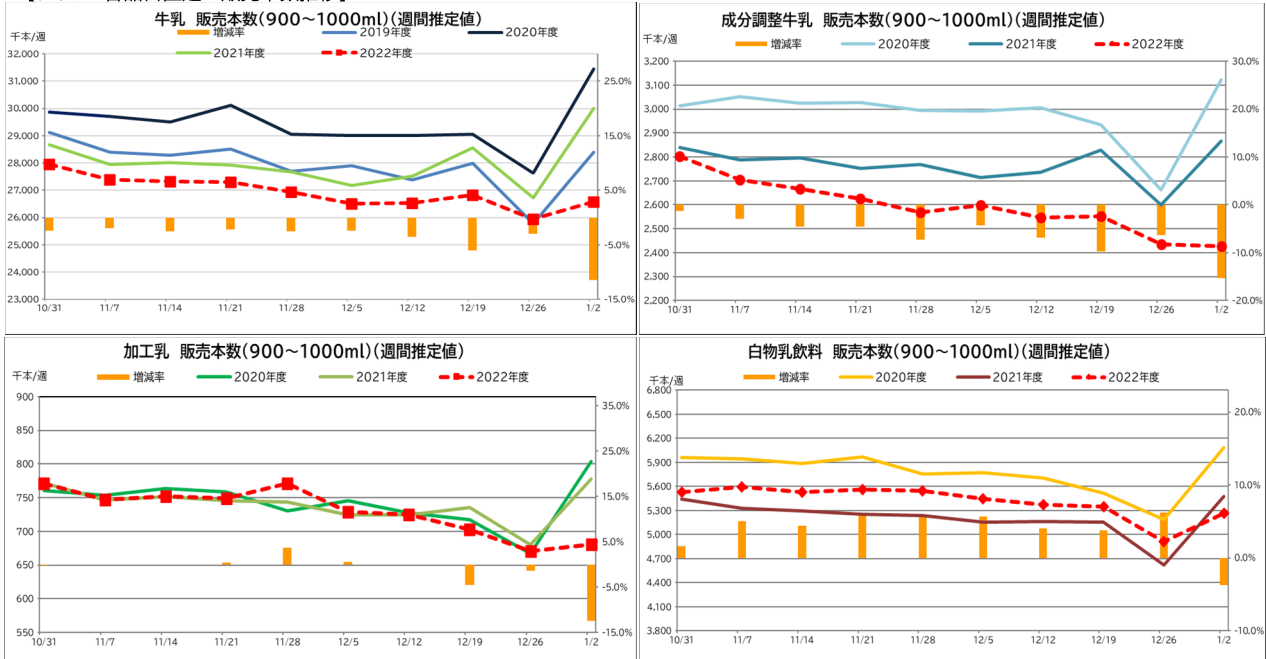
単位:千個、円

品目	区分	2022/7-	2022/8-	2022/9-	2022/10-	2022/11-	2022/12-
トータル	販売個数	186,323	187,097	175,657	171,212	155,485	159,283
	販売個数前年比	98.7	96.5	97.6	98.2	98.2	96.6
	販売単価	182.9	183.7	183.4	183.1	195.7	197.5
牛乳	販売個数	142,239	143,408	133,609	130,277	117,037	120,429
	販売個数前年比	98.8	97.1	97.7	98.3	97.3	95.6
	販売単価	189.8	190.6	190.4	190.2	204.4	206.2
成分調整牛乳	販売個数	13,756	13,647	13,243	12,796	11,463	11,550
	販売個数前年比	98.8	94.3	97.1	97.9	95.6	92.3
	販売単価	174.1	174.8	174.4	173.7	186.9	188.3
加工乳	販売個数	3,782	3,767	3,598	3,476	3,215	3,257
	販売個数前年比	99.4	95.2	97.9	97.2	99.3	98.7
	販売単価	190.6	190.3	190.5	190.1	199.1	199.7
乳飲料	販売個数	26,545	26,276	25,207	24,664	23,771	24,047
	販売個数前年比	98.0	95.0	97.2	97.9	104.2	104.0
	販売単価	149.6	149.9	150.1	149.7	156.7	157.6

【表② 牛乳類の販売動向(直近の週次動向)】

品目	区分	11.14-	11.21-	11.28-	12.5-	12.12-	12.19-	12.26-	1.2-
トータル	販売個数	36,264	36,230	35,831	35,284	35,186	35,432	33,961	34,944
	販売個数前年比	98.4	98.8	98.4	98.7	97.4	95.0	98.1	89.3
	販売単価	196.8	197.1	196.6	196.9	197.0	197.6	199.3	198.5
牛乳	販売個数	27,315	27,292	26,948	26,513	26,542	26,827	25,945	26,568
	販売個数前年比	97.5	97.8	97.4	97.6	96.5	93.9	97.1	88.6
	販売単価	205.5	205.9	205.6	205.9	205.9	206.3	207.9	207.4
成分調整牛乳	販売個数	2,666	2,625	2,568	2,599	2,548	2,553	2,436	2,428
	販売個数前年比	95.4	95.4	92.7	95.8	93.1	90.3	93.7	84.7
	販売単価	188.3	188.4	188.2	188.0	188.3	188.5	188.5	189.1
加工乳	販売個数	752	749	771	729	725	703	671	681
	販売個数前年比	100.0	100.5	103.7	100.6	100.0	95.4	98.7	87.5
	販売単価	199.7	200.5	196.5	198.4	198.1	200.9	203.6	202.5
乳飲料	販売個数	5,531	5,564	5,544	5,443	5,372	5,349	4,909	5,267
	販売個数前年比	104.4	105.8	105.9	105.7	104.0	103.8	106.2	96.3
	販売単価	157.4	157.6	157.1	157.1	157.2	157.9	158.7	157.3

【グラフ 各品目直近の販売本数推移】



【ヨーグルト類の販売速報(推定値):インテージSRI+】

(1)直近の週次動向(表④参照)

直近(1.2週)の販売個数は、ドリンクタイプ(90~250ml):前年同期比100%以上、個食タイプ(70~130ml):同90%以上、大容量タイプ(350~500ml):同90%未満。

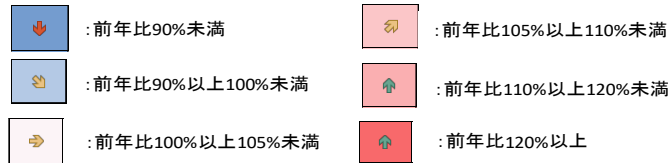
【参考】2020年度比…ドリンクタイプ:88.8%、個食タイプ:83.6%、大容量タイプ:81.4%

(2)直近2週の前年比増減について、前年(2021年度)の12.27週と1.3週との販売個数を比較していることから、1月2日の販売個数減少分の反動と予想される。2週合算の前年比は、ドリンクタイプ110%以上、個食タイプ90%以上、大容量タイプ90%以上。

※出典 ㈱インテージSRI+週データ。販売個数については推定値。データ転用はご遠慮下さい。

【表④ ヨーグルト類の販売動向】

品目	11.14-	11.21-	11.28-	12.5-	12.12-	12.19-	12.26-	1.2-
ドリンクタイプ	⇒	↻	↻	⇒	↻	↻	↑	⇒
個食タイプ	↘	↘	↘	↘	↘	↘	⇒	↘
大容量タイプ	↘	↘	↘	↘	↘	↘	↻	↓



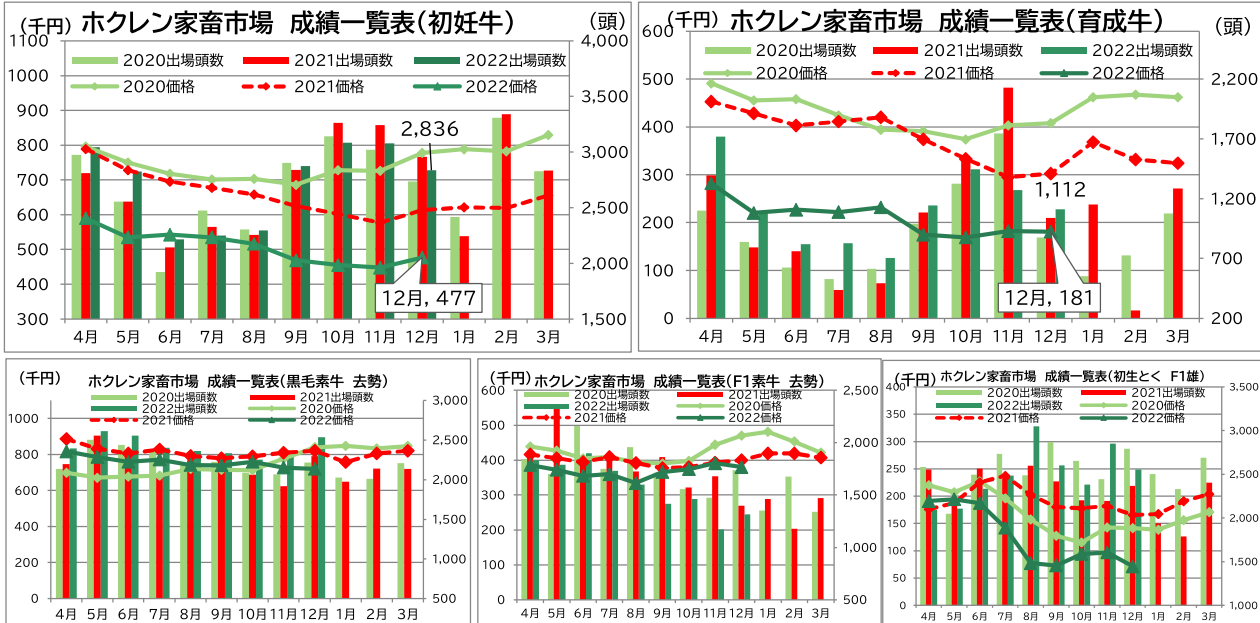
※なお、下地の色が濃いほうが、上記範囲内で前年との増減差が大きいことを表す。

【家畜販売価格動向】

(1)12月の家畜販売価格動向について、ホクレン家畜市場集計によると、初妊牛価格は477千円(前年同期比77.8%)、育成牛価格は181千円(同59.9%)、和牛素牛(去勢)価格は720千円(同87.8%)、F1素牛(去勢)価格は380千円(同95.0%)、F1初生(雄)価格は71千円(同43.1%)。初妊牛は4ヶ月連続で50万円を下回り、F1初生(雄)は5ヶ月連続で10万円を下回った。

(2)出場頭数(出回り頭数)は、初妊牛:同95.9%、育成牛:同107.0%、和牛素牛(去勢):同110.3%、F1素牛(去勢):同94.0%、F1初生(雄):同107.9%。

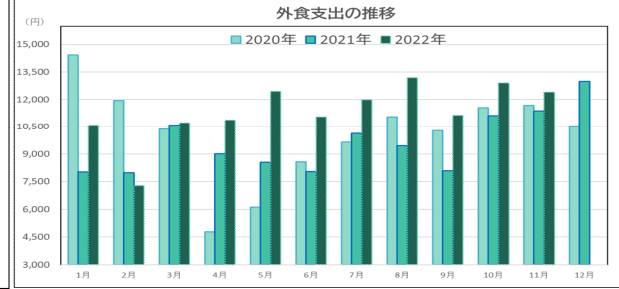
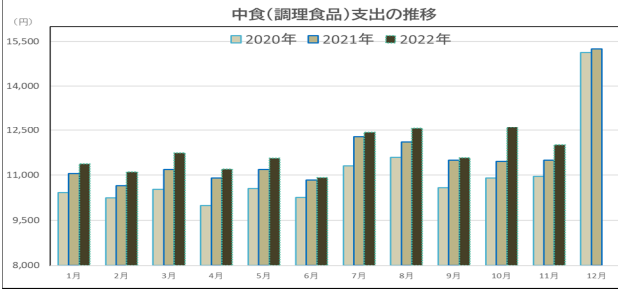
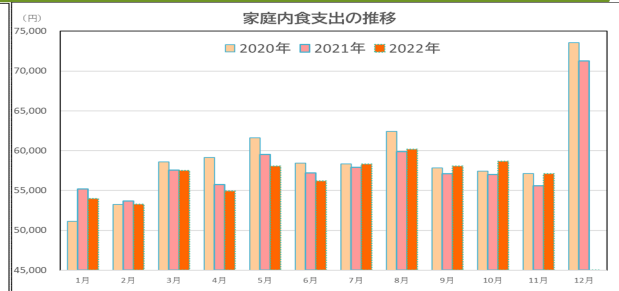
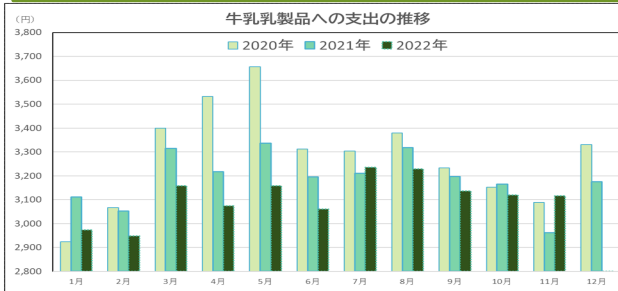
※ホクレン家畜市場集計表 速報値(<https://www.kachiku.hokuren.or.jp/Downloadresult.aspx>)



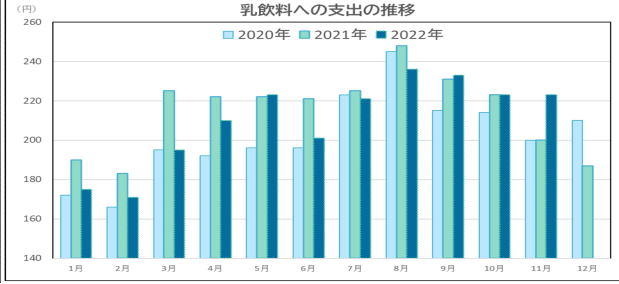
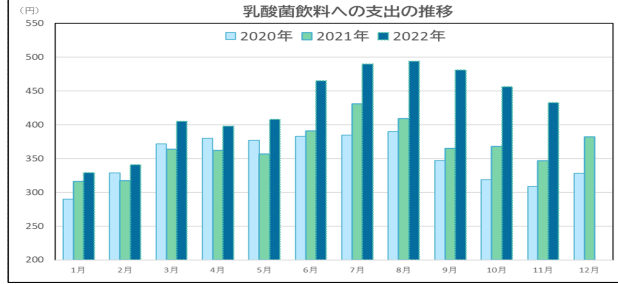
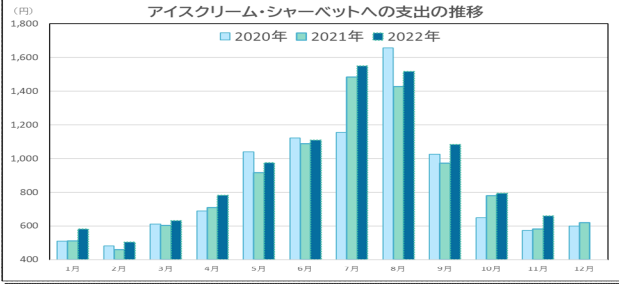
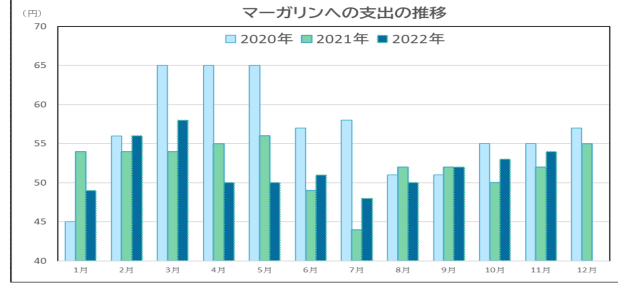
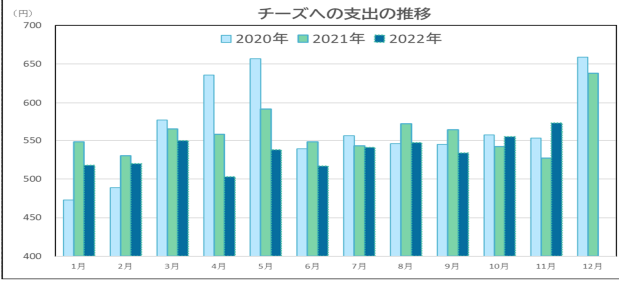
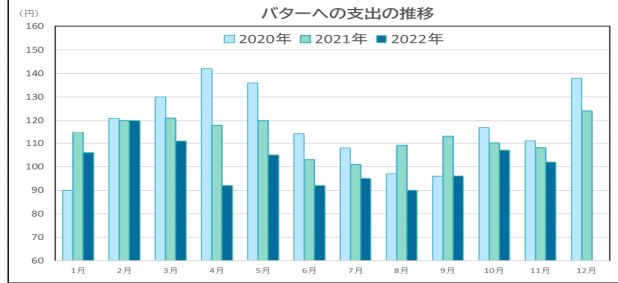
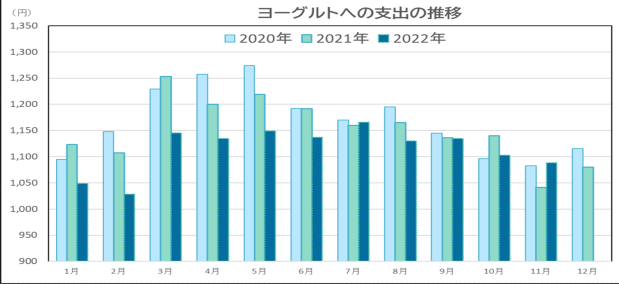
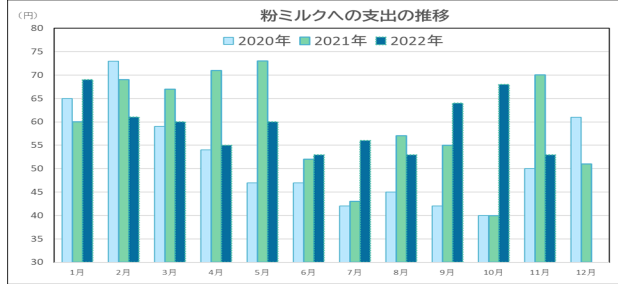
【家計支出の動向】

(1)11月の支出額について、外食109.0%、中食104.4%、内食102.7%と前年を上回り、食料全体への支出額は103.8%となった。
 (2)牛乳乳製品の支出額は、牛乳等を中心とした製品価格改定の影響から前年を上回った。(牛乳乳製品全体前年比:105.2%、(うち牛乳106.4%、乳製品104.5%))

※総務省家計調査（家庭内食は、食料-調理食品-外食で独自に算出）



【参考:その他品目支出の動向】



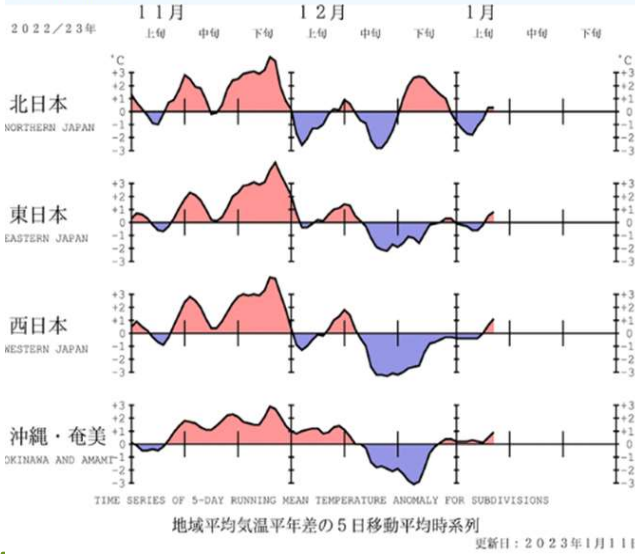
【気象庁HPより全国1ヶ月予報(1/7-2/6)抜粋】

全国的に、期間の前半は気温がかなり高くなる見込みです。

北日本日本海側では、平年と同様に曇りや雪の日が多いでしょう。東・西日本日本海側では、平年に比べ曇りや雪または雨の日が少ないでしょう。北・東・西日本太平洋側では、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

※出典：気象庁

前3か月間の気温経過



2023年01月05日14時30分発表
01/07-02/06の気温



【乳製品輸出価格の動向】

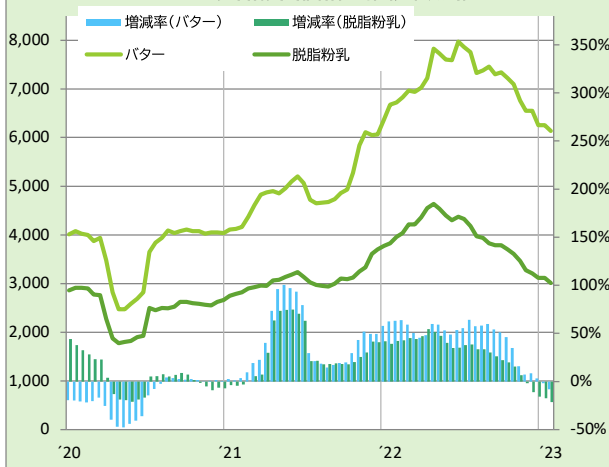
(1)直近の乳製品国際相場について(1月上旬)

・欧州：脱脂粉乳3,000ドル/ト、バター6,150ドル/ト中心

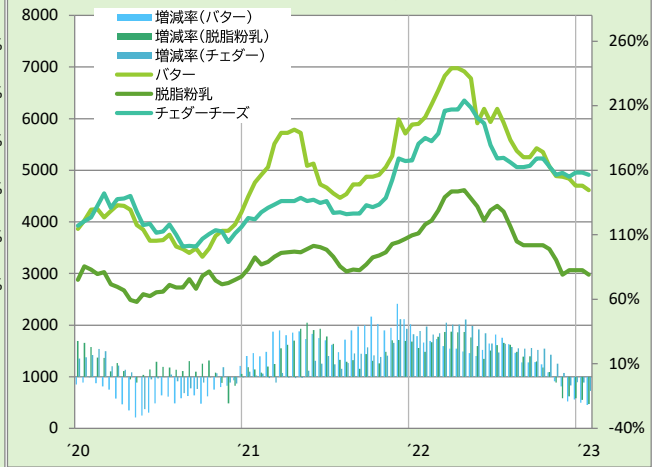
・オセアニア：脱脂粉乳3,000ドル/ト、バター4,600ドル/ト、チェダーチーズは4,900ドル/ト中心

※出典：米国農務省(USDA)

(USドル/トF.O.B.port) 乳製品輸出価格の推移(欧州)



(USドル/トF.O.B.port) 乳製品輸出価格の推移(オセアニア)



※「2022年度生乳需要基盤確保事業 独立行政法人農畜産業振興機構 後援」